

NEWS LETTER Vol.5

小村寿太郎侯東京奉賛会 広報誌

2016

秋季号

平成 28年 10 月
刊行

CONTENTS

- ゼミナール「小村寿太郎の生涯」を大いに語る
- 初秋の山梨 親睦バスツアー
- 「めざせ 小村寿太郎 国際塾」のご紹介
- 飢肥トピックス
- 青山 小村侯墓所参拝・清掃
- 広報活動
- 平成28年10月役員会報告
- 平成28年総会・懇親会のご案内



教養講座第2弾、無料ゼミナールを実施
「小村寿太郎の生涯」を大いに語る



日南市北郷町イロハモミジ

ごあいさつ

小村寿太郎侯は宮崎県日南市飢肥という片田舎で生れ、生来の才能と強い信念で弱肉強食の時代の日本を一等国に導いた人ですが、その思い、業績は極めて高いにも拘わらず、あまり評価されることもなく、また普く知られてもいません。私達はこの現状を思い、四年前に、「小村寿太郎侯東京奉賛会」を立ち上げ、小村侯の業績、その思いを学び、より広く多くの人々に伝える事を目的としております。

四年目の今年も大変忙しい年でした。具体的には 1. 青山墓所の参拝・清掃 2. 学習会では講師を招き、ゼミナール形式での相互意見交換等 3. 広報誌は4回それぞれ2千部を発行 4. 親睦を目的としたツアーでは小村侯の終焉の地葉山へ、世界遺産の富岡製糸場へ、甲府盆地へ 5. 日南市、外務省との交流 6. 懇親会等 この会もようやく四年になり、それなりの実績を積んでまいりましたが、この会は長く続けなければなりません。その為にはなによりも多くの皆様のご協力が必須です。

今後とも宜しくお願い申し上げます。

会長 川村 蒼 市

ゼミナール 小村寿太郎の生涯を大いに語る

6月

7月

8月

2016年 小村侯無料ゼミナールを振り返って

昨年の教養講座の第2弾として、本年度も会員サービス事業の一環として「無料ゼミナール」を実施し、好評裡に終了した。

このゼミの企画にあたって、次の点を思い巡らした。「どうして、日向のあんなところから、あんな男が出たのかなあ」と薩摩出身の元首相山本権兵衛に言わせしめるほどの、わが郷土の偉人、小村寿太郎のことをわれわれ郷土人は、どこまで理解しているだろうか。

同じ郷土の方々に小村さんのことを訊くと、ほとんどの方は、小村さんのことは「学校で詳しく教わらなかった」とか、元外務大臣であることは知っていても『日露講和条約会議での活躍』程度、である。彼の幼少期における風土・教育環境下で培われた不屈の精神力・信念や外交官としての他の業績に触れる人は意外に少ない。

今回は、小村さんがどうして日本明治外交の立役者でどのような活躍をした人か、彼の幼少期からの生涯をもう一度顕彰しようではないかとの一念のもとで企画してみた。

しかも今回は、参加費及びテキスト無料の形をとり、会員が参加しやすいように募集も配慮してみた。

その結果、17名の参加を得て実施した。この中には、会員外の方4名が参加された。参加のきっかけは会発行の「チラシ」により参加した人が多く、知人の紹介も若干あった。

又、このゼミでは、運営の方法も新しい方法で取り組んだ。新しくゼミ方式を採用入れ、一方的な講義に終始することなく、受講者に事前に無料テキストを配布し、受講者は読書を通じて感じた点をゼミの場に持ち込み、その時点での『小村寿太郎の生涯』を大いに語り合いながら、リーダーが解説を加えて進める方式で展開した。このゼミ方式を“良し”とする参加者がほとんどで、受講者主体のゼミ方式が好評だったことが窺える。そもそも、今回も昨年同様、テキスト『若き日の肖像』をベースに「幼児期から遊学まで」→「ハーバード留学から外務省前期まで」→「外交官としての充実期」を3回シリーズで実施した。

その結果、ほとんどの受講者から「大いに参考になった」との評価を得た。

また、小村寿太郎の生涯で最も印象に残ったことを挙げてもらったところ別掲のとおりであった。

受講者により受けた印象の違いはあるものの、総じて今回の趣旨である小村さんの生涯を顕彰する一端にはなったのではなかろうか。

受講後のアンケートを通して、ほとんどの受講者が「参加してよかった」と回答し、好評だったことが窺える。

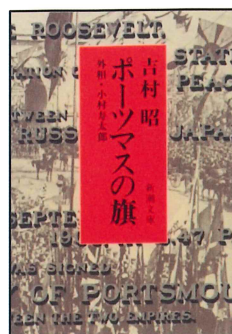
なお、「今回のようなゼミに再度参加したいかどうか」を訊ねてみたところ、全員が「再度参加したい」との意思表示であった。

ただし、今回も3回シリーズ方式で展開し、3回とも連続で参加された方はわずか5名でした。この観点から、来年度はこの方式を改め、『幼少期から遊学まで』、『ハーバード留学から外務省前期まで』、『外交官としての充実期』の3講座にそれぞれ独立させ、内容も充実させ、関心ある講座にのみ参加できるよう改善を加えていきたい。

最後に、ゼミにご参加いただいた方々には、全員がもれなく、自由に意見、見解、感性でご発言いただいたことがゼミを盛り上げることとなりました。貴重な時間を割いて、進んでご参加いただきました皆様には敬意と感謝を申し上げます。

記 梶田嘉生、郡司聡視

無料配布テキスト





小村さんの生涯で最も印象に残ったこと

松下定信氏（鹿児島県種子島出身）

- 14歳で飢肥を離れ、長崎留学を決断する時の小村自身の葛藤
- ポーツマス講和会議でのウイットとの駆け引き外交

宮本裕子氏（日南市飢肥出身）

- 日本の外交・国際交流の先駆けとして業績を残したこと

吉田千草氏（日南市大堂津出身）

- 数か月間の長崎留学中、一人町中で英語を実践し、覚えたこと
- 晩年、「戦争をする必要がないだけにはしたつもりです。今後は産業その他に力を入れて、国民を楽に暮らせていくことです」と申されたこと

平野恵一氏（岩手県出身）

- 幼少期、祖母「くま」から基本的な生き様・誠を体にしみこませてもらったこと
- 個人的・私的面子を捨て「ポーツマス講和条約」を締結したこと。これが「高平・ルート」協定から「中国に関する9か国条約」へと発展し、大東亜・太平洋戦争までの世界が認めるアジア・東アジア・中国に関する枠組みの礎となったこと

榎本郁夫氏（延岡市出身）

- 至誠の高さ、揺るがぬ実行力、インテリジェンスの達人

石崎国雄氏（日南市飢肥出身）

- 世界中の覇権主義の中にあって、日本の進むべき道を理解していた点
- 留学時代に日本の国力を見て、弱小国である我が国の採るべき道を考えていたことー平和主義者

帆足章子氏（宮崎市出身）

- 正直で、正義感にあふれた人
- 自分は貧乏しても、後世のための奨学金として今なお子供たちのために使われていることは素晴らしい

黒木公子氏（日南市飢肥出身）

- ポーツマス講和条約での活躍、幼年期の飢肥での生活と長崎留学時代、不遇時代

山崎香澄氏（串間市出身）

- 幼少期・青年時代の過し方、米国留学時代、帰国後の不遇時代、外務省時代の活躍と外交官としての国際感覚の素晴らしさ

安田治子氏（日南市飢肥出身）

- 幼い時の祖母、振徳堂、取り巻いた教育者の誠の道が一生涯、彼の生きる指針、方程式になったのではないかな。それが身に着き、仕事をするにも意外と生き易かったのではないだろうか



第3回親睦バスツアー「初秋の甲斐路とワイナリーを訪ねる」

実施日：2016年9月13日(火)



初秋の甲斐路・韭崎大村美術館とワイナリーを訪ねて

藤下七郎 氏

人工衛星のお陰で、近年の天気予報は正確になってきた。

9月13日(火)奉賛会恒例のバスツアー当日、山梨地方の天気予報は雨または曇りの予報であった。

バスは出発時間を少々遅れ、小雨の中、新宿西口を8時30分に出発、山梨の韭崎大村美術館へと向かった。ところが山梨の大月を過ぎたころには雲間から、薄日が差し込んでくる一方、車内から弾んだ話し声が飛び交うようになった。天気予報も外れることがあるのかな・・と独り言。

予定時刻に韭崎大村美術館に到着、同美術館で、日本画で初の文化勲章受章者の上村松園や、女性洋画家として初の文化功労者に顕彰された三岸節子他の、全国でもあまり例を見ない近代から現代までの女流美術家達の作品に加え、文化功労者として顕彰された洋画家、鈴木新太郎の作品及び人間国宝の島岡達三、バーナード・リーチ、浜田庄司らの民芸作品を見学した。

殊の外、作家、山本周五郎の「全ての芸術は人の心を楽しませ清くし、高めるために役立つべきものである・・・」との韭崎大村美術館を称賛したメッセージに、改めて、大村 智博士の人柄に敬愛の念をもった。

韭崎大村美術館の見学を終え、バスは甲府市内の「ホテルふじ」へと向かい、同ホテルで昼食のバイキングや入浴を楽しみ、バスはブドーの産地、勝沼へと向かった。シャトー勝沼でワイン工場と試飲を楽しみ、帰路に就いた。帰路の車内では、遠路、静岡の浜松から参加された大月美保子さんの熱唱に加え、参加者全員の懐かしい歌の合唱で車内の雰囲気は一層盛り上がった。

実は、私が観光を目的として甲府盆地を訪ねるのは24年ぶりのことで、若かったころを懐かしんでみたいと期するものがあつた。甲府盆地とフランスのボルドー地方は、共にブドーの産地の関係で山梨大学とフランスのボルドー地方のポー大学は、姉妹大学の提携を結んでいた。

その事は、後で判ったことだが、平成4年11月、フランスのボルドー出身の高校生レノン・デリュー君を、ホームステイをしていたこともあり、レノン君がポー大学の学長から、山梨大学学長宛てのバナーを託されていたので、レノン君と山梨大学の学長を訪ねたことがある。当時、山梨大学では、フランスから“哲学教育と論理的な思考力”を学ぼう・・・とポー大学と積極的な交流を重ねていたようである。ご存知のとおり、フランスには哲学教育を目指したルソー大学があり、世界各国から民族や宗教とは無関係に大勢の若者が集い、哲学を学んでいる。私も数年前フランスを訪れた際、ルソー大学のキャンパスを訪ねたことがあります。広大なキャンパスには学生たちが集い、語らうスペースが随所に設けてあり、フランス人の天真爛漫な気風は教育環境から育まれているように思えた。フランスでは、高校の最終学年で哲学の基本が徹底的に教えられ、また、大学入学資格試験には哲学の難題が出題され、人間形成の上で大きな影響を与えているようである。

ところでフランスでは、大学に進学する場合、高校時代の成績証明書、若しくは大学入学資格試験の成績証明書を銀行に提出し、銀行から学費を借り入れるようである。一方、銀行も成績証明書に基づき、当人名義で融資をしてくれる体制になっており、就職した後に、分割で返済する仕組みになっている。また、フランスでは20歳から2年間の兵役義務があり、限られた中で、より良い職業に就けるよう必死に学業に取り組んでおり「五月病」とは無縁のようである。

我が国では、学生の大半が両親から学費の支援をうけているようであるが、良し悪しは兎も角、わが国の大学教育も、見直す時期が来ているように思える。

最後に、大村 智博士のように医学・生理学の学術研究のみならず、広く、民芸作品に至るまで、感性豊かな若者の輩出を切望し、初秋のバスツアーの感想文と致します。





第3回バスツアーに参加して

増田房子 氏

日帰りバスの旅に初めて参加しました。

平日とあって道路の混み合いも無く、談合坂SAで休憩を入れ、自己紹介をしながら程なく韮崎大村美術館に着きました。私は初めて訪れた美術館でした。入口には抽象画が沢山並んでいて、こういう絵もあるのかと思いながらやはり日本画や風景画を見ると何となくほっとしました。

こじんまりした美術館で、見学するには程良いなあと感じました。普段文化的な触れ合いの少ない私にはとても有意義な時間でした。

ホテルのお昼、バイキングはどうしても欲張って沢山食べてしまうので、もうお腹いっぱいでお風呂も「よだきいな」と休憩所でゴロゴロしてしまいました。買い物や工場見学も個人ではなかなか行けない所で、いささか階段の昇り降りに苦労しましたが大変楽しい時間でした。帰りのバスも退屈することなく、紙芝居も童心に帰り聞き入りました。雨の中大きな荷物を運ぶだけでも大変なことでしたでしょうに……

また、みんなで歌をうたいご指導された大月さんの素晴らしい澄んだお声がとても印象に残っております。

できれば彼女の歌を何曲か聞きたかったなあと感じました。

それから係の方々にはかゆい所に手が届くように何から何までお世話頂き、あっという間に新宿についてしまいました。雨もあがり楽しい一日を過ごすことが出来、本当に有難うございました。

これからも行事の際にはできる限り出席する様いたしますので、どうぞ宜しくお願い致します。



小村寿太郎侯東京奉賛会バス旅行 感想文

吉田千草 氏

毎回役員の方々の知識量の多さ、深さ、豊かさには驚かされ、尊敬の念に堪えません。昨年同様、今年もバスの中の催しは充分に考えて下さってました。中でも小村侯に浪曲があったと初めて知りビックリ。そして事実と違う点を説明してくださった。本当に実によく調べていらっしゃる。

紙芝居のお爺さんの語り口が上手でハマってしまいました。ワインの話も良かった。コーラスも楽しかった。全てよかった。

お陰様で小村侯の勉強と甲斐路を楽しませて戴きました。感謝しております。

飢肥トピックス



9月3日岸田文雄外相が小村寿太郎侯歿後105年の今年、現職外務大臣として初めて日南市飢肥を訪れました。「小村寿太郎侯の足跡に思いを巡らす大変貴重な機会を頂き心から感謝を申し上げます。小村侯は、我々この外務省に関係する人間にとりましては日本の外交史にとって、大変大きな存在であります。」と挨拶。

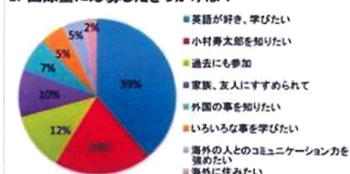


9月25日、南郷町で「NHK のど自慢」の収録があり司会的小田切千さんが小村記念館を訪れた。

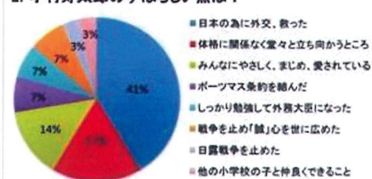
めざせ 小村寿太郎 国際塾のご紹介

めざせ 小村寿太郎国際塾 参加生徒さんへのアンケート

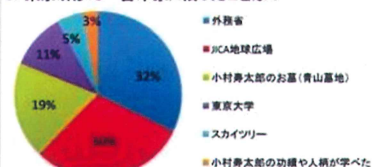
1. 国際塾に応募したきっかけは？



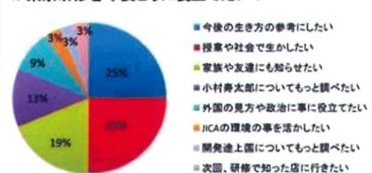
2. 小村寿太郎のすばらしい点は？



3. 東京研修で一番印象に残ったことは？



4. 東京研修を今後どうに役立てたい？



5. 今後、東京研修があれば参加したいですか？

はい 100%

めざせ 小村寿太郎 国際塾

平成20年度設立

小学校5年生から中学2年生までの生徒を対象とし、国際社会に対応できる人材育成と語学力向上を目的として設立され、宮崎県で唯一、毎年外務省を訪れて学習している。(平成23年から) その他、行程の一つとして、港区の青山霊園に赴き、小村寿太郎侯の墓参等を行っている。

当会としては、傍らから応援できることがあるならば、と先般、アンケート調査に応じて頂いた。

今後は、皆さんの意向に副ったお手伝いを行ってまいります。



青山墓所 参拝・清掃活動



昨年の総会以降、5回の青山墓所参拝・清掃を延べ58名の参加で行う事が出来ました。

なお日南市より「めざせ小村寿太郎 国際塾」小学6年生グループが来訪。墓所参拝を行いました。

1月23日 17名 8月23日 25名



	実施日	参加人数
第1回	27年11月29日	14名
第2回	28年 3月27日	8名
第3回	28年 5月29日	10名
第4回	28年 7月31日	14名
第5回	28年 9月25日	12名

広報活動

宮崎県関連団体の催事への参加、当会活動の紹介と広報誌の配布

2月 三州倶楽部主催「石井十次」講演会参加
4月 「高木兼寛先生を偲ぶ墓参」参加

NEWS LETTER 春季号の刊行・配布

5月 在京宮崎県人会
6月 富島高校東京同総会
7月 在京北郷会 ばんば会
9月 在京宮崎郷土人会
10月 在京日南の会 一金会等

役員会報告

平成28年10月8日ジャパン・プロテクション会議室において役員会が開催されました。主要議題：

役員人事について

- ・副会長 藤下七郎氏、顧問 太田原瑞穂氏 参与 本田武次氏の3氏よりの退任願い
- ・参与 浜砂順一氏5月31日ご逝去
- ・顧問 下笠直樹氏の副会長就任推薦 上記に関して討議され、承認された。

東京奉賛会の名称について

今後、若年層向けの活動推進のためにも当会の名称を検討すべきではという提案が出され、運営委員会での継続審議とした。

平成28年 総会・懇親会のお知らせ

平成28年総会・懇親会を11月12日(土)に開催致します。

開催日時 平成28年11月12日(土) 13:00～
会場 日本出版クラブ会館 3階 鳳凰の間
新宿区袋町6番地 ☎03-3267-6111

会費 4,000円
基調講演 メディアと小村寿太郎

講師 宮代栄一氏
(朝日新聞社 文化くらし報道部 編集委員)

ゲスト Misa Chi(久嶋みさち)
シンガー 正調 刈干切唄 他



久嶋みさち

小村寿太郎侯東京奉賛会

〒130-0026 東京都墨田区両国 1-14-10-801

電話 03-3846-9030

FAX 03-6659-3084

E-Mail kanemaru.hiroshi@orchid.plala.or.jp